

# 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

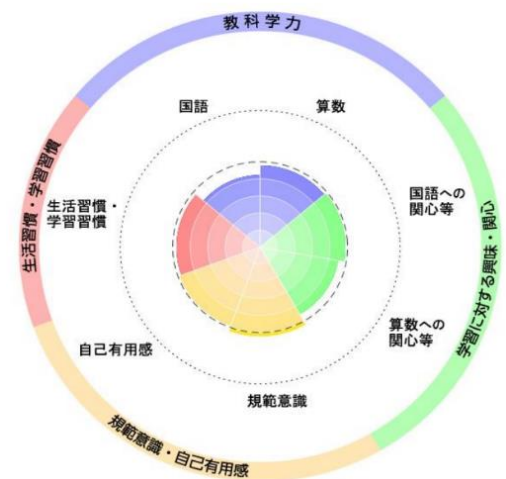
6年生を対象に4月18日に実施した全国学力・学習状況調査の結果がまとまりました。

そこから見た本校の指導の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童への指導の充実や学習状況の改善等に、教職員が一丸となって取り組んでいきます。

## 【調査結果の傾向と取組】

### 国語

[児童生徒]  
児童質問紙(全国基準)



分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴校	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体			61	66	67.2
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	65.5	70.1	71.2
		(2)情報の扱い方に関する事項	57.6	64.3	63.4
		(3)我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	63.2	70.4	72.6
		B 書くこと	18.1	25.6	26.7
C 読むこと		67.9	70.4	71.2	
評価の観点	知識・技能	63.3	68.5	68.9	
	思考・判断・表現	58.8	64.0	65.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	68.3	73.4	73.6	
	短答式	56.7	61.2	62.7	
	記述式	42.2	48.2	51.1	

・全体的に全国平均を下回る結果となった。質問紙によると、「国語の勉強は大切だと思う。」と回答した割合が平均よりも高かった。大切だという思いを、学習意欲や学力に結び付けていけるよう指導を行っていきたい。

○「C 読むこと」の正答率が他の領域に比べ高く、メモや資料から情報を読み取ることが比較的できていることが分かった。他の領域と比べても無回答率が低く、読むことに関しては苦手意識がやや低いのではないかと考えられる。今後は「目的に応じて情報を見つける力」を伸ばしていきたい。

▲「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」の正答率が、全国平均と比べ低かった。「目的や意図に応じ、自分の考えをまとめる」力を育てていきたい。また、表現することに苦手意識がある児童が多いと考えられるので、自分の考えや意見を表現する場を多く設けたい。

## 算数

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴校	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体		16	60	63	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	65.4	67.1	67.3
	B 図形	4	46.7	50.0	48.2
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	69.0	72.3	70.9
	D データの活用	3	61.0	65.2	65.5
評価の観点	知識・技能	9	64.6	67.8	67.2
	思考・判断・表現	7	54.8	57.2	58.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	54.1	59.2	57.7
	短答式	7	73.5	74.8	74.7
	記述式	4	45.0	47.8	47.3

・全体的に全国平均を下回る結果となった。質問紙によると、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。」と回答した割合が高かった。算数に対するの必要感を、主体性に結び付けられるよう指導を行っていききたい。

○「B 図形」領域が、指導要領の他の領域に比べ全国平均との差が小さかった。「正方形や台形の意味や性質について」の問題では、正答率が全国平均を上回っていた。三角形に関しては、面積の求め方や性質などを捉えられるようにする必要がある。

▲特にデータの活用に関する問題に苦手意識がある。他の領域と比べ無回答率が高くなっており、今後の課題であることが分かった。「条件に合わせてグラフや表から情報を読み取る力」を伸ばしていきたい。

## その他

○質問紙の調査によると、規範意識が高く出ている。また、将来の夢や目標をもっている児童が平均に比べ高い結果となった。

○国語に比べ算数の方が、全国平均との差が小さくなっている。本校で3年間取り組んでいる算数の重点研の結果が出ていると考えられる。

▲国語、算数ともに全国平均より無回答率が高かった。(国語 6.6%、算数 3.5%)  
無回答率が20%を超える問題が計3問あった。